

【本時の目標】 アンデス山脈の高山地域に居住する人々の生活の資料を例に、自然的条件や社会的条件の影響を受けた生活が見られることを、根拠を示しながら考察し、表現する。(本時 6/9時間)

【本時における社会的な見方・考え方】 資料から高山気候に暮らす人々の衣食住に着目して、自然及び社会的条件を関連付けて地域的特色をとらえる。

問 題 世界の人々の暮らしが異なるのはどうしてだろう。

めあて せっかく高いところに来たんだから、ここの暮らしをしてみたや。

板書

衣

リヤマやアルパカの毛皮の服  
(高い場所で飼育可能)  
強い日差しや気温差に対応できる民族衣装ポンチョ  
つばの広い帽子

食

じゃがいもを中心とした食事  
(標高 4000mでは、じゃがいもを作ることができる)  
リヤマやアルパカの肉を食べる  
標高が高いと作物は作れないので、じゃがいもの保存や低い場所で食べ物を入手する。

住

標高が高すぎるので、木は貴重なので木製は少ない。  
アドベと呼ばれる日干しレンガの家

・標高の高いところでとれる作物(主にじゃがいも)や家畜(リヤマやアルパカ)でつくる肉や織物を必要なものと交換する生活  
・標高の高いところで手に入る材料を使った生活

変容

技術の進歩により、道路の整備や輸送が行われるようになり、苦勞して歩き交換するのではなく、日本と同様に、店で購入できるようになっている。  
観光業なども発達し、レストランなどもある。

まとめ

標高の高い場所のできる生活が伝統的に行われてきていたが。技術の進歩や経済の発達で、食料などの入手は簡単にできるようになり、新しい生活に変化してきている。

◎深い学びの実現に向けた「問題」と「めあて」の工夫

世界の様々な地域を見ていくとき、自分事にするためにも「今自分たちが生活しているスタイルがなぜ世界中で行われていないのだろうか。」という疑問を持たせるように仕組み、「世界の人々の暮らしが異なるのはどうしてだろう」という単元を貫く課題を設定する。自分たちの生活も含めて、日々の生活は気候を含めた自然及び社会的条件から影響を受けていることともに影響を与えていることを、資料から考え、判断し、表現することで学習を深めていく。

その際に、それぞれの地域の衣食住に着目し、その生活が行われている要因などについて、雨温図や植生や場所、人々の工夫などの資料から、自分たちの生活と比較しながら、その生活をしている妥当性を見出していくように支援を行っていく。

また、その生活も不変なものではなく、技術の変化、環境の変化、経済の変化などによって変容していくことにも気付かせていくように課題を設定していく。

高山都市ラパスの場所に注目し、めあてを設定する	ラパスの人々の生活について資料をもとに考察し、調べたことについて表現する(思・判・表)	まとめ・振り返り
-------------------------	---	----------

<p>【高山都市ラパスの場所に注目し、めあてを設定する】</p> <p>T 今日ではラパスに住む人々の生活について学習していきます。これまでに学んできたことで、人々の生活はどんなことに影響されますか。</p> <p>S その地域の気候帯だと思います。</p> <p>S その地域の植生だと思います。</p> <p>T ラパスは、この位置にある都市ですが、どんな気候だと思いますか。そう思った理由をあわせて答えられるようにお願いします。</p> <p>※前にかけてある世界地図で示す。</p> <p>S 赤道の近くに位置しているから、熱帯帯だと思う。</p> <p>S 近くにブラジルのアマゾン川流域があることから熱帯帯と思う。</p> <p>S 赤道の近くにあるが少し離れているので、温帯の可能性もある。</p> <p>T 他に意見はありませんか。みなさんは、位置から考え、そう判断したんですね。では、気候について判断するにはどんな資料があればよいですか。</p> <p>S 雨温図があればわかると思います。</p> <p>T 分かりました。ラパスの雨温図は、このようになっています。</p> <p>※電子黒板に、雨温図を表示する。</p> <p>S 熱帯ではない。平均気温が低すぎるし、降水量も少ない。</p> <p>S 温帯だとしても、気温が低いように思う。</p> <p>T なぜ、低緯度にあるラパスの雨温図がこのようになるのだろう。</p> <p>S 海流の影響で、寒流が近くにあるからでは？</p> <p>S でも赤道近くにあるのに寒流の可能性はあるの？</p> <p>T 疑問ができましたね。では、その理由を地図を使って説明しましょう。</p> <p>S アンデス山脈の中にある都市だ。高い位置にあるから、そんな雨温図になる。</p> <p>T ラパスの下にある数字を見てください。</p> <p>S 4058 って書いてある。4058mの高さにあるの？</p> <p>T その通りです。この資料を見てください。</p> <p>※富士山の高さと比較したラパスの位置を電子黒板に示す。</p> <p>T 今日ではラパスの人々の生活について、学んでいきます。どのようなめあてにしましょうか。(生徒から出させる。)</p>	<p>【さまざまな資料から、ラパスの人々生活について衣食住に着目し考察する。】</p> <p>T ラパスの人々の生活を考えるには、どんなことに着目していけばよいですか？</p> <p>S 衣食住について着目していけばいいと思う。</p> <p>T そうですね。では、衣食住について着目して考えていくためには、どんな資料があればよいでしょうか？</p> <p>S 雨温図や植生の資料やラパスの様子に分かる資料があれば、考えていけると思います。</p> <p>T それでは調べていきましょう。</p> <p>※ラパスに関連する資料から読み取り、根拠を示しながらなぜそのような衣食住になっているのか考え、表現する。</p> <p>【調べたことについて説明し、疑問が出たことを質問する。】</p> <p>T それでは、各班が調べたことについて説明します。担当する班は説明をお願いします。他の班はメモを取りながら聞きましょう。説明の後には、疑問を質問しましょう。</p> <p>S 衣について説明します。</p> <p>S 標高が高いこともあり、日差しが強いことから、つばのある帽子をかぶることが多い。</p> <p>S 昼と夜の気温差が大きいことや強い日差しから体を守るために、家畜の毛皮から作られた、肌を隠すようなポンチョと呼ばれる民族衣装を着ている。</p> <p>S 家畜は、高い場所でも適応できるリヤマやアルパカを飼っている。服に使われるのは、アルパカの毛皮である。何か質問はありませんか。</p> <p>S 食について説明します。</p> <p>S 4000mをこえる場所では、作物は育ちにくいので、3000mから4000mの間で何とか栽培できる「じゃがいも」が主食となっている。その他には「とうもろこし」や「小麦」が食べられる可能性があるが、じゃがいもと比べて、栽培するのが難しい。</p> <p>S 4000mをこえる場所では、作物が育てられないため、「リヤマ」や「アルパカ」の家畜が放牧されている。これらの家畜は、運搬用や食用、毛で衣服を作るために使われている。また、皮はひもに使われ、ふんは干して燃料や肥料に使われるなど、ほとんどを生活に活用している。</p> <p>S 標高が100m上がると、気温は0、6度下がります。ラパスは4000mを越えているため、平地より24度は低いこととなります。このため、作物が育ちにくく、じゃがいもやリヤマやアルパカの肉が食べられている。何か質問はありませんか。</p> <p>S 住について説明します。</p> <p>S 雨温図から、降水量が少なく乾燥していることが分かる。また標高が高いため、木は貴重であると考えられるので、木製の家は少ない。</p>	<p>S 「アドベ」と呼ばれる、日干しレンガの家が多いことが分かりました。これは、強い日差しと乾燥した気候で、寒暖差が大きいので、干しレンガが利用されています。</p> <p>S 酸素が薄く、レンガつくりのため、火事はほとんど起きないそうです。何か質問はありませんか。</p> <p>T このような衣食住をしているラパスの人々は、伝統的にどのような生活をしているのでしょうか？</p> <p>S リヤマやアルパカの家畜を育てる生活。</p> <p>S 必要なものは交換する生活。</p> <p>S 作物については、限定されたものしか栽培できない生活。</p> <p>【自分の調べた内容以外を記述し、高いところで行われている伝統的な暮らしについてまとめる】</p> <p>T では、2022年の現在も、ラパスではこのような生活をしているのだろうか？【調べている内容を発表】</p> <p>S 観光客がきている。</p> <p>S 道ができて、トラックで運ぶことができています。</p> <p>T そうなると、どんなことが変化しますか？</p> <p>S 食べるものが、じゃがいもだけでなくなる。</p> <p>S レストランでいろいろなものが食べられる。</p> <p>S 家もいろんな素材で作ることができる。</p> <p>S 長い時間をかけて、リヤマやアルパカを使って運搬することがなくなり、その時間で、これまでになかった仕事をするができる。</p> <p>T そうですね。伝統的な生活がまったくなくなるわけではありませんが、変わってきていますね。どうしてですか？</p> <p>S 技術が進歩したから。</p> <p>S 経済が発達したから。</p> <p>S 外国とのつながりが強まったから。</p>	<p>T 本時の学習では、標高の高い地域を例に衣食住に着目して生活の影響を考えました。それでは、めあてである、「せっかく高いところに来たんだから、ここの暮らしをしてみたや」に対して、伝統的な衣食住が自然や気候からどう作られていて、現在はどうに変化しているのかまとめましょう。</p> <p>【発表】</p> <p>S 標高が高くなればなるほど気温が下がることから、その環境で作ることができるじゃがいもを食べたり、家畜のリヤマやアルパカを使った服や移動をなど、その地域のできる生活をしている。</p> <p>S その地域のできることをする生活を長年続けているが、今の技術により、少しずつ変化が起こり、日本でしている観光業や建築などもできはじめています。</p> <p>T それでは、振り返りをしましょう。「わ、で、ぎ、や」でお願いします。</p> <p>S 赤道に近いものの標高の高いところに位置するラパスでは、熱帯ではなく、特殊な気候になっている。しかし標高が100m高くなると0.6度気温が下がることを考えると、もしラパスの標高が高くないと、気温が24度高いことになり、熱帯の気温に近くなります。</p> <p>S 気候が食生活に大きな影響を与えていることは、主食のじゃがいもから分かりました。また高い地域に適した家畜であるリヤマやアルパカが重要なものであることも分かりました。</p> <p>S 標高の高い地域では、どうやって水を得ているのか疑問ができました。</p> <p>S 標高の高い地域でしている生活は、その生活を望んでいるというより、その地域で生きるためにその生活をしているということが分かりました。</p> <p>S ラパス以外の高いところでは、雨温図にも違いがあることから、別の高山気候の暮らしはどうなっているのか疑問が出ました。</p>
<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を活用しながら、仮説を立てさせる。</li> <li>身近な富士山を活用し、ラパスの人々の生活のイメージを持たせる。</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連付けられていない班には、アドバイスをを行う。</li> <li>関連する資料について気づかせ、多面的・多角的に考えさせる。</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表に対しての質問に、可能な限りで答えさせ、他の班からも協力をもらう。</li> <li>質問に対して答えられない場合は、各自が調べるようにつなげる。</li> </ul>	<p>&lt;指導上の留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を振り返ることで、まとめにつなげていき、単元の問題に迫る。</li> </ul>
<p>《評価規準》</p> <p>ラパスに暮らす人々の生活の特色やその変容の理由を、衣食住、地形や植生等の自然的条件や社会的条件などに注目して、多面的・多角的に考察し表現している。【思・判・表】</p>			

